

平成16年度学校経営計画表

1 学校の現況

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|-----|----------|----|------|----|-------|-------|---------|---------|------|------|-------|----|---|----|
| 学校番号 | 特12 | 学校名 | 県立大子養護学校 | | | | | 課程 | 全日制 | | 学校長名 | 茅根修嗣 | | | | |
| 教頭名 | 永山正文 | | _____ | | | | | _____ | | 事務(室)長名 | 仲沢 栄 | | | | | |
| 教職員数 | 教諭 | 25 | 養護教諭 | 1 | 常勤講師 | 5 | 非常勤講師 | 1 | 非常勤看護職員 | 1 | 事務職員 | 2 | 技術職員等 | 6 | 計 | 41 |
| 児童生徒数 | 小学部 | | | | | | | | 中学部 | | | | 学級数 | | | |
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 合計 | 1年 | 2年 | 3年 | 合計 | (小学部) | 8 | | |
| | 男 | 2 | 0 | 3 | 4 | 6 | 2 | 17 | 5 | 4 | 1 | 10 | (中学部) | 5 | | |
| | 女 | 0 | 0 | 2 | 3 | 1 | 2 | 8 | 2 | 2 | 1 | 5 | | | | |
| | 計 | 2 | 0 | 5 | 7 | 7 | 4 | 25 | 7 | 6 | 2 | 15 | 合計 | 13 | | |

2 目指す学校像

一人一人の個性に応じて適切な教育を行い，豊かな心と自立をめざし，たくましく生きていける児童生徒を育成する教育を推進する。
 医療的ケア支援事業をもとに，特別に配慮を必要とする児童生徒の教育の充実を通して，地域の総合的な特別支援教育を推進する。
 理解啓発の充実や関係機関等の連携を深め，地域における障害のある幼児児童生徒の教育のセンター的役割を推進する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

| 項目 | 現状分析 | 課題 |
|-------|---|---|
| 学習指導 | 個別の指導計画から，一人一人に応じた実践を進めているが，系統的な教育計画の体制が不十分である。その整備が必要である。 | 実践に至る教育計画の流れと評価（通知票等）の連動性をどう図るかシステムの具現化がのぞまれる。 |
| 医療的ケア | 支援事業を通しての取り組みから円滑にケアが推進されているが，ケアのもつ意義を教育課程との関連から整理する必要がある。 | 障害の重い児童生徒の教育において，「自立活動」の指導の充実をどう図るかがのぞまれる。 |
| 理解啓発 | 地域交流事業や各種の行事等での広報活動から，理解は深まりつつある。さらに，定期的な地域への情報発信とその充実が必要である。 | 日頃の教育活動（学校の様子）積極的に啓発する取り組みをどう図るか工夫・検討がのぞまれる。 |
| 支援教育 | 学区内の市町村教育委員会等とのかがわりから，指導に係る相談等の支援依頼が増えつつある。効率的な運営体制の整備が必要である。 | 支援相談担当者のコーディネーターとしての役割の充実と，支援業務の円滑な運営の推進をどう図るか検討がのぞまれる。 |

4 中期的目標

| |
|---|
| <p>1 系統的な教育計画にそった教育の深化を図るため、実践状況を具体的に整理して個別面談等を活用し、保護者との連携を深め、児童生徒の教育に関する共通理解の推進を図る。</p> <p>2 医療的ケアの意義と障害の重い児童生徒の教育について、実践的な研修をとおして全教職員で障害の重い児童生徒の教育の充実を図る。</p> <p>3 理解啓発等の方法及び内容を改善し、地域に根ざした養護学校の実現に向けた取り組みの推進を図る。</p> <p>4 地域における特別支援学校としての役割の実現に向けた組織及び運営の改善を図る。</p> |
|---|

5 年次ごとの重点目標

| 年次 | 重点目標 | 具体的目標 | 達成状況 |
|-----|--|--|------|
| 1年次 | <p>個別面談等の充実から、保護者との連携を深めた教育の共通理解を図る。</p> <p>障害の重い児童生徒の指導の充実を深める取り組みを図る。</p> <p>理解啓発の内容や方法等の改善を図る。</p> <p>支援体制の整備とその業務の効率的な運営の改善を図る。</p> | <p>個別の指導計画の点検と、実践に至る道すじや通知票等の検討及び作成を図る。</p> <p>医療と教育に関する研修や、障害の重い児童生徒の体験授業を定期的に行い、「自立活動」を中心とした指導の改善を図る。</p> <p>地域広報誌（学校だより）を発行し、地域や学区内の関係機関へ配布し、養護学校の状況を積極的に広報する。</p> <p>校務分掌等の校内組織の改編や、関係機関等との連絡会等の組織化の検討を図る。</p> | |
| 2年次 | <p>客観的な情報を共有化した個別面談等を工夫し、保護者との連携を深めた教育の充実を図る。</p> <p>身体等の状況に配慮して障害の重い児童生徒一人一人に応じた指導の充実を図る。</p> <p>理解啓発の内容や方法を工夫し、養護学校の理解の深化を図る。</p> <p>養護学校のセンター的機能の体制・内容を分析し、学校の現況に応じた円滑な運営の工夫を図る。</p> | <p>個別の指導計画や指導への道すじとなる資料を包括的に整理し、その効果的な活用をとおして指導の現況と見通し等の理解を深める。</p> <p>「自立活動」の研修を深め、「自立活動」の趣旨をふまえた指導目標・内容にもとづいた指導を推進する。</p> <p>地域や関係機関・関係者に学校を公開する取り組み積極的に行い、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>創意工夫した日頃の学習を公開し、養護学校の教育の意義と内容について関係職員等への研修を図る。</p> | |
| 3年次 | <p>多面的な授業の公開を工夫して、学校と保護者相互に内容や成果に対する理解の深化を図る。</p> <p>障害の重い児童生徒の個別の指導計画をまとめ、一人一人の自立をめざした指導の確立を図る。</p> <p>地域や関係機関との連携の深化をもとに、地域での生活につながる支援の充実を図る。</p> <p>養護学校教育の理解の深化をもとに、センター的機能の充実した運営を図る。</p> | <p>授業実践をもとに、指導目標・内容及び評価の状況等の具体的な流れの確立を図る。</p> <p>一人一人の身体等の状況に応じた「自立活動」を中心とした指導目標・内容・方法等の確立を図る。</p> <p>「地区親の会」の活動支援とおして、居住地の関係機関の事業への参加支援や独自の活動への支援を推進する。</p> <p>関係機関との連絡会等を積極的に運営し、学校と関係機関等とのかかわりや連携等の支援にかかわる協力体制の確立を図る。</p> | |